

令和4（2022）年度

教職課程

自己点検・評価報告書

川村学園女子大学

令和 5（2023）年 3月

川村学園女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・文学部（国際英語学科、心理学科、史学科、日本文化学科）
- ・教育学部（幼児教育学科、児童教育学科）
- ・生活創造学部（生活文化学科）

大学としての全体評価

川村学園女子大学では、建学の理念である「自覚ある女性」「社会への奉仕」の実現のため、教員養成に力を注いできました。大学全体では自己点検を重ねて来ましたが、今回教職課程に特化した自己点検を行いました。概ね目標を達成しており、自己点検としては合格と判断します。

しかし各養成課程の特徴ある、効果を生んでいる教育実践が、全て共有されていないという問題が明らかになりました。その改善に早急に取り組む必要があります。

初めての自己点検を契機に、PDCAをよりよく展開していきたいと考えております。

川村学園女子大学

学長 西川 誠

目次

I	教職課程の現況及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	16
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	17
V	現況基礎データ一覧	18

*2頁以下の頁数は実際に応じて記入してください。

I 教職課程の現況及び特色

1. 現況

- (1) 大学名：川村学園女子大学
- (2) 学部名：文学部、教育学部、生活創造学部
- (3) 所在地：千葉県我孫子市下ヶ戸 1133 番地（文学部国際英語学科以外）

東京都豊島区目白 3-1-19（文学部国際英語学科）

- (4) 学生数及び教員数（令和 4（2022）年 5 月 1 日現在）

学生数 文学部：教職課程履修者 56 人／学部 530 人

教育学部：教職課程履修者 202 人／学部 216 人

生活創造学部：教職課程履修者 30 人／学部 260 人

教員数 文学部：教職課程科目担当 18 人／学部全体 28 人

教育学部：教職課程科目担当 20 人／学部全体 20 人

生活創造学部：教職課程科目担当 8 人／学部全体 24 人

（内、教育委員会との交流人事 0 人）

2. 特色

川村学園女子大学は、文学部、教育学部、生活創造学部の 3 学部（8 学科）、大学院人文学研究科（3 専攻）から成る私立総合大学である。我孫子キャンパスと目白キャンパスの二つのキャンパスで、約 1,000 名の学生が学んでいる。小規模の大学だからこそ可能なきめ細やかで丁寧な教育を特色としている（ホームページ「本学の強み」）。教職課程においても少人数での指導が中心であり、このことは、後述する自己点検評価においても明らかのように、本学の教職課程で学ぶ上での大きなメリットとなっている。教職課程は、表 1 の通り設置されている。

毎年の教員免許状取得者は年度によってばらつきはあるものの、およそ 100 名程度で推移している。このうち教育学部の卒業生を中心に教員を輩出している。そのほとんどが千葉県や茨城県で教職に就いており、地域社会の発展に寄与している。

学部	学科	幼稚園一種	小学校一種	中学校一種	高等学校一種	栄養教諭二種
文学部	国際英語学科			英語	英語	
	史学科			社会	地理歴史	
	心理学科				公民	
	日本文化学科			国語	国語	
教育学部	幼児教育学科	○				
	児童教育学科		○			
生活創造学部	生活文化学科			家庭	家庭	○

表 1 学科における取得免許状一覧

さらに本学では、所属する学科において取得できる教員免許を基礎免許として、他学科の免許を取得することも可能である。教育学部児童教育学科の学生が小学校一種免許状の他に中学校一種免許を取得するなど、この制度を利用して毎年複数の学生が二つの免許を取得している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

川村学園は、大正13(1924)年川村文子によって創設された「川村女学院」を母体とし、「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成による「社会への奉仕」を教育理念として教育活動を行ってきた。昭和63(1988)年に開設された川村学園女子大学もこの理念を受け継ぎ、女子教育に携わってきた。知的能力の向上を前提として学生個々人の人間性の調和ある発達と自らの社会的使命を自覚し社会の有用な一員になり得る人材養成を本学の教育は目指している。各学科の教育課程においても、建学の教育理念をもとに、以下で述べるような教員養成に対する理念や求める教員像が定められている。

文学部国際英語学科では、社会のニーズに即した英語力と国際的な視点をそなえたコミュニケーション力をもつ人材を育成し、生徒たちに英語運用能力だけでなく、異文化への関心や理解、国際社会を見る目を身につけさせることができる幅広い能力を備えた教員の育成を目指している。史学科では、各地域・時代の歴史・地理に関する知識を基に、現代社会の諸問題の解決に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけ、歴史学地理学を学習することの個人的社会的な意義を十分に伝えられる教員養成を目指している。心理学科では、人および社会の特質、成り立ちと今日的課題について学習するカリキュラムにより、現代の社会とそこに生きる人間をよく理解し、教育できる教員の育成を目指している。日本文化学科では日本の伝統や文化を深く理解し、国際的感覚を持って世界に発信できる実践力のある人材を養成し、日本文化に関してさまざまな視点からの学習を深めることを通じて真に有用な国語科教員の育成を目指している。

教育学部幼児教育学科では、幼児教育者としての専門性だけでなく人間として生きる基礎力を有するとともに、幼児および保護者への共感的理解のできる教員の育成を目指している。児童教育学科では、学校における問題が多様化・複雑化するなかで、時代に対応した実践力のある小学校教員を育成することを目指している。

生活創造学部生活文化学科では、生活者・消費者として生活全般を見渡せる社会学的素養、豊かな生活を創造する実践力を有する人材育成を目指し、現代社会が抱える生活の諸問題を考察し、問題解決できる能力を身に付け、自ら社会に参画している資質へ発展させ、教育・社会に貢献できる家庭科教員育成を目指している。栄養教諭の養成においては、児童生徒を取り巻く課題を踏まえ、望ましい食習慣の形成を促し、食文化の継承、自己管理能力の育成、豊かな心、社会性を身に付ける能力を有した教員の育成を目指している。

〔長所・特色〕

上記の理念や教員像の教職員・学生間の共有、学修成果の可視化について、いくつかの方法を通して、その実現に努めている。

- ①本学ではカルテと呼んでいるポートフォリオの活用である。児童教育学科では入学時、中高教職課程では教職課程履修開始時に「教職課程履修カルテ」を配布し、教職理解の一環として教師像について考えるために活用している（資料1-1-1）。幼児教育学科では「保育・教職実践演習カルテ」で育むべき学修成果を可視化している。「栄養教諭履修カルテ」においても、ふさわしい栄養教諭について考えることができるように工夫されている。
- ②教職課程を履修する学生と、教職センターの教職員が出席する教職課程ガイダンスを定期的に行い、本学として求める教員像等の周知が行われている。
- ③シラバスで各授業について、ディプロマポリシーとの関連や、学修成果を可視化している（資料1-1-2）。
- ④授業こそが、そうした理念・教員像を実現するために最も重要な場である。各学科ともそれを体現するために構築されたカリキュラムを有しており、それに沿った教員養成を目指している。各学科の授業での取り組みの具体例を挙げる。

コア・カリキュラムの各分野における学科の該当科目について説明し、大学英語教育学会編の『言語教師のポートフォリオ』を配布し、将来の教師像や教職に必要な項目の習得状況を記入させ、省察できるようにしている（国際英語学科）。実践的スキル・創造的思考力・論理的思考法や発信力を養うために発表と討論の経験を積ませている（史学科）。社会心理学・発達心理学・臨床心理学の各分野の学修を通し、他者との共生による社会への参加、定型・不定型発達の特徴・課題や現代青年の心身の問題を理解し、問題意識をもって支援できる教師の育成を目指す（心理学科）。日本の伝統や文化を深く理解し、世界に発信できる実践力養成のために、日本文化全般に関する「日本文化入門」、さらに美術、伝統芸能、民俗などに関する科目群を設け、国語教育の背景となる日本文化を多様な視点から学習する（日本文化学科）。

「幼児教育体験学習」において、様々な共同作業を通じて目標とする保育者像の実現に向けて取り組んでいる（幼児教育学科）。女性の社会貢献の意義にかかわるジェンダーの視点を取り入れ（「教職論」）、予測困難な時代を生き抜く力として「感性を磨く」をテーマとし（「国語」及び「国語科教育法」）、既存の映像資料やテレビアーカイブスを利用し、体験的に学べる工夫をし（「進路指導・キャリア教育」）、毎回実習・実験を行い、科学的思考力の育成を行っている（「理科」）。教科教育法では授業見学や授業の

達人（VTR）の指導法を分析し、理論と実践の往還に努めている。さらに、児童と信頼関係を築き、積極的に学習に向かわせる力を養成するために、児童の話を「聞くためのスキル」を身につけるワークを行っている（「進路・キャリア教育」（児童教育学科））。

「社会と生活」、「生活と家庭」、「栄養と健康」の3領域のカリキュラムで、変容する社会を理解し、自分らしいライフデザインを構築できる力、衣・食・住・家庭分野での生活の質やマネジメントを探究する力、食に関する専門的な技能・能力を有する家庭科教員の養成を目指している。栄養教諭では、食に関する指導の基礎となる、栄養、健康、食品、学校給食に関連する基礎的知識、技能の習得とともに、目指す栄養教諭像等について対話し、学びを深めている（生活文化学科）。

〔取り組み上の課題〕

上記の通り、本学の教職課程においては、ポートフォリオ、ガイダンス、シラバスなどでの理念や教師像の学生への具体的提示を実施し、授業においてそれらの理念や教師像に沿った教員を養成するために様々な工夫が行われている。したがって、学生は具体的な目標やラーニング・アウトカムが示されることで、見通しをもって学ぶことができ、なおかつ自らの学びを省みながら学習を進めていける。

しかしながら、教員間で教職課程の理念や教師像の共有を組織的に行っているかという点に関しては課題が残る。もちろん、各学科の学科会議や教員間の日々の関わりの中で自然と共有されていると考えることもできるし、教育学部幼児教育学科では、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有するため月に1回以上の実習担当教職員ミーティングを開き、生活文化学科でも家庭科の目標及び目指す教師像を共に認識するために定期的に勉強会を開いている。理念や目指す教師像こそが教職課程の目的・目標であり、そこを目指して各教員が教育を改善していくことが求められていることに鑑みれば、教職センターでの全体的共有、上記2学科以外の学科においてこのような理念や教師像を共有するための場を意識的に設ける試みが行われてもよいと思われる。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：中高教職課程「教職課程履修カルテ」（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ1）
- ・資料1-1-2：児童教育学科「教育原理」のシラバス（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ2）

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学の教職課程には、教職課程認定基準における必要担当者数を上回る専任教員を配置し、教職センターを中心に研究者教員・実務者教員・事務職員が連携し、協働して教職課程を運営する体制が整っている（資料1-2-1）。同センターは、運営会議で年間の活動計画を立案し、学生に対して個別相談や指導等の支援、履修指導、教員採用試験に向けた対策支援や情報提供、教員免許状の一括申請に関する業務、地域や教育委員会との連携等を担っている（資料1-2-2）。また、毎年『教職センター年報』を発行し、所属する教員が論文・教育実践等を発表・共有できる。

他に、教職課程に関わる組織として、学長の諮問機関である教職課程委員会が教職課程の円滑な運営を図るために設置され、教職科目の編成や、教育実習の計画・指導・運営等を担っている。

前期と後期に実施している授業評価アンケートの活用も教員の質向上のための組織的取り組みとして挙げられる。評価内容は、「授業の進め方」に関する7項目（教員の熱意・教材利用は効果的であったか・授業のポイントを適切に示していたか・授業速度は適切であったか・学習内容の量は適切であったか・学生の理解度にそっていたか）、「学生の行動・理解」に関する6項目（欠席回数・総合的に授業に満足しているか・内容を理解したか・もっと勉強したいと思ったか・積極的に受講したか）と自由記述から成り、授業を改善するための客観的なデータの一つである（資料1-2-3）。

また、FDやSDも教職課程を組織的かつ協働的に履行するための重要な取り組みである。普段教職課程に関わることがほとんどない教職員に教職課程への理解を深めてもらう重要な機会となっている。令和4（2022）年度は、1月25日に「教職課程自己点検評価について」というテーマで、全学の教員が参加する形でFDが行われた（資料1-2-4）。

教職課程の質向上としては、教育が有効に機能するための施設・設備の整備も重要である。ICT教育環境の適切な整備として、iPadを学生全員に配布し、Microsoft 365のアカウントを教職員・学生に付与し、Teamsをはじめとしたアプリを活用できる環境を導入している。教職課程の授業においても、授業そのものを円滑に進めるだけでなく、教員の資質として求められるICT活用のスキルを身につけるためのツールとして、様々な形で活用されている。

〔長所・特色〕

上述したiPadやTeams等を用いたICTの利活用についての具体例としては、CALL教室の指導者側の機器やPC、書画カメラの操作をさせたり、BBCのドラマの一部をStreamに上げ、コメントをFormsやTeamsの課題機能を用いて提出させたりしている（国際英語学科）。パワーポイントを用いた授業実践（史学科）や、iPad活用例として、予習復習を促すため

配布資料や授業スライドを事前公開したり（心理学科）、プレゼン発表、課題提出、フィードバックに使用したり（幼児教育学科）、模擬授業での使用や各種動画の視聴、資料の共有をしている（日本文化学科、生活文化学科〔家庭科教員養成、栄養教諭養成〕）。他にも、書画カメラ、実物投影機、デジタル教科書を使用している（児童教育学科）。

〔取り組み上の課題〕

授業評価アンケートでは、IRセンターによる分析がFDにおいて示されるため、教職課程の枠に囚われずに大学全体の中で自らの授業実践を捉えることができる。また、教職課程科目とそれ以外の科目との比較において分析することも可能となる。たとえば、「教員の熱意」や「受講態度の積極性」など多くの項目において、全学と比較した場合、ほとんどの学校種の履修生が肯定的に評価している（資料1-2-5）。

他方、教員が教職課程の授業改善につなげ、理念や教師像を共有し、それに向けた教育に関する情報を得るには、授業評価アンケートの上記の質問項目では不十分な場合がある。質問項目の適切な設定を行い、より実質的な授業改善につなげていくことが求められている。

また、環境面での課題としては、ICT環境が整備されても、活用が不十分な点が挙げられる。iPad、Microsoft Teams を活用した資料配付、アクティブ・ラーニングの実践例は多かったが、電子黒板はほとんど利用されておらず、デジタル教科書の利用も1、2科目に留まっている。現在、ICT環境の導入が急速に進んでおり、こうした機器や教材にはアナログ教材とは異なる特有の使い方がある。それを熟知していれば、その特性を十分に発揮した授業を行うことができる。したがって、教職課程の学びにおいて、それらの扱いに慣れておく必要があり、教員が積極的に授業に導入することが求められているといえよう。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：川村学園女子大学「令和3年度 自己点検・評価報告書」p.56
(URL: <https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/09/2021jikotenken.pdf>)
- ・資料1-2-2：「川村学園女子大学ホームページ 教職センター」
(URL: https://www.kgwu.ac.jp/campuslife/teacher_center/)
- ・資料1-2-3：「令和3年度 授業評価アンケートの分析」
(URL: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/2021_jyugyouhyouka.pdf)
データ3
- ・資料1-2-4：FD「教職課程自己点検評価について」資料（2023年1月25日）
(『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ4)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援**基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成****〔現状説明〕**

本学の教職課程においては、教職を担うべき適切な学生を確保・育成するために、教職センターが中心となって様々な取り組みを行っている。定期的に行われる「教職課程ガイダンス」によって教職への理解と自覚を深め、教育実習の履修基準を明確に示し（資料2-1-1、2）、教職課程委員会において教職課程を受講している学生一人ひとりについてその基準に合致しているかどうかを確認し、組織的に学生を支援し育成する体制がとられている。

〔長所・特色〕

教職を担うべき学生を適切な形で育成するために、本学で行われている長所・特色として、細やかな教職指導を挙げることができる。本学は少人数教育によるきめ細やかな指導を標榜しており、大きな特徴である。たとえば「教職課程履修カルテ」の利活用により、各学生の資質に応じた教職指導を行い、学生の側から見ると教員との距離が近く、丁寧に指導してもらえているという実感に繋がっている。

〔取り組み上の課題〕

教職を担うべき学生の育成を組織として考えた場合、課題として挙げられるのは、教員の連携であろう。「教科及び教科の指導法に関する科目」については当該学科の教員が担当し、「教育の基礎的理解に関する科目」等については、児童教育学科や心理学科の教員が担当するという体制がとられている。教職課程を履修する学生について学科の壁を越えて教員同士が連携する場として、教職センターや教職課程委員会が設置されているわけであるが、学生の育成を丁寧に行うことを考えた場合、同僚性の構築をより一層進める必要があるだろう。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：川村学園女子大学『履修案内 2022年度』p.158
- ・資料2-1-2：川村学園女子大学『履修案内 2022年度』pp.157-158

基準項目2-2 教職へのキャリア支援**〔現状説明〕**

本学の教職課程では教育委員会や教職に就いている卒業生と連携した機会を定期的に行き、教職に就くため、就いた際の有益な情報を提供することに努め、組織的に教職を目指す学生のキャリア支援に取り組んでいる。

〔長所・特色〕

教育委員会や地域の多様な人材と連携した機会としては、千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」「先生っていいもんだ」(資料2-2-1、2)、千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」を開催し(資料2-2-3)、千葉県の求める教員像、教育施策や教員研修のあり方、教員採用試験の状況に関して学ぶことのできる機会を継続的に提供している。

また、教職センター主催で、夏期と春期に教員採用試験対策講座を(資料2-2-4、5)、教員採用試験に向けた指導として教員採用試験二次対策講座を開催した(資料2-2-6)。こうした取り組みによって、本学の令和4(2022)年度の教員採用試験の合格率は、中高教員採用試験一次合格率92%、二次合格率36%、小学校教員採用試験一次合格率91%、二次合格率65%であった(資料2-2-7、8)。中高教職課程・児童教育学科では「教員採用試験合格記」を作成し、教職課程を履修している下級生全員に配布している(資料2-2-9)。その他、教職に就いている卒業生との交流の機会としては、児童教育学科の卒業生が集う機会であるGオフィスを定期的で開催している。

各学科における、教職へのキャリア支援の取り組みの具体例では、すべての学科において相談や面談を適宜実施し、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するとともに、ニーズに合わせた履修指導を行っている。さらに、学生同士の連携と情報の共有を図り、各教科の指導法において、学習指導案作成と模擬授業についての充実した支援が行われており、教科の学びにおいても、教育現場を念頭においた指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕

本学の教職課程においては、外部講師ガイダンスや教員採用試験対策講座などの教職センターによるキャリア支援のみならず、各学科の教職課程においても、さまざまな形でキャリア支援を行っている実態が明らかとなった。引き続き学生一人ひとりがよりよく生きることであり、学生一人ひとりの人生を見据えてのキャリア支援を行っていく。

教職に向けたキャリア支援に関連した課題を挙げるとすれば、外部との交流を含むキャリア支援について、今後、コロナ以前のような頻度・規模に回復させていくことが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」(UNIPA 配信データ5)
- ・資料2-2-2：千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」(『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4(2022)』データ6)

- ・資料2-2-3：千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ7）
- ・資料2-2-4：令和4年度「夏期教員採用試験講座」時間割（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ8）
- ・資料2-2-5：令和4年度「春期教員採用試験講座」時間割（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ9）
- ・資料2-2-6：「教員採用試験二次対策講座」実施要領（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ10）
- ・資料2-2-7：川村学園女子大学 HP「小学校教員採用試験 努力の結果！（令和5年度採用）」
（URL：<https://www.kgwu.ac.jp/2022/11/15/小学校教員採用試験-努力の結果！（令和5年度採用）/>）
- ・資料2-2-8：「教員採用試験合格率データ」（教職課程委員会資料 データ11）
- ・資料2-2-9：川村学園女子大学児童教育学科「教員採用試験合格記」（『教職課程自己点検評価報告書用データ令和4（2022）』データ12）

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム**基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施****〔現状説明〕**

本学の教職課程のカリキュラムの編成や実施における取組を述べる。基準項目1-1や2-1で述べた通り、学生が目的をもって教職課程での学びを進められるように、「教職課程履修カルテ」「保育・教職実践演習カルテ」「栄養教諭履修カルテ」を用いた教職指導を行っている。また、基準項目2-1で述べた通り、教員としての資質・能力を担保するために、教育実習の履修条件を定めている。

また、基準項目1-2で述べたように、ICT機器の活用による情報活用能力の育成やアクティブ・ラーニングなどによる課題発見能力・課題解決能力を育成することも、これからの教師を育成することに鑑みカリキュラムに工夫が求められるところである。

〔長所・特色〕

ICT活用のスキル育成のために、全教員、学生に付与されているMicrosoft 365、1・2年生に配布されたiPadを積極的に活用していることは既に述べた。

アクティブ・ラーニングについては、すべての教科において模擬授業を繰り返し行うが、模擬授業内でアクティブ・ラーニングやグループワークの実践が行われる。それに加え、毎回の模擬授業終了後に全員で批評を交わし、授業内容改善につなげている。実際の授業実践でも生徒とのやり取りや資料の読み取りについてなど、学生による相互批評の形で議論し、アクティブ・ラーニングへの意識を高めるようにしている。

特色ある取り組みについて示す。教育の基礎的理解に関する科目において注目されるのが、「教職論」(小学校/中・高校)における「差別体験授業」であろう。これは、学生が疑似的な性差別を体験し、子どもの人権を尊重する方法について学んでいる。「学校体験活動」においては、年6回、我孫子市湖北地区公民館の「寺子屋コホミン」の事業に共催して、市内の小学生に1対1の学習支援を行っている(資料3-1-1)。その振り返りにおいて、学生が目標の反省を述べ、館長・副館長が、個別指導の評価(良かった点と今回の努力点)を行う。他の学生の小学生への関わり方を聞く中で、今後自分の支援に役立てようと考え、自分の視点とは違う切り込み方を学び、体験を通して、深い学びが形成されている。

〔取り組み上の課題〕

以上「教職課程カリキュラムの編成・実施」の諸課題のうち、ICT機器の活用による情報活用能力の育成やアクティブ・ラーニングなどによる課題発見能力・課題解決能力を育成といった現代的な課題に本学の教職課程がどのように取り組んでいるかを中心に確認してきた。ここで明らかになったことは、こうした課題に対して各学科において、特色ある

学びが展開されていることである。他方で、現状として、そうした特色ある取り組みが学科を越えて共有されているとは言いがたい。教職課程の質を高めていくことを考えた場合、よい事例は積極的に共有し、各教員が授業改善につなげていく必要があるだろう。そのためにも、学科を越えて好事例を共有するための取り組みが求められている。この教職課程自己点検も、そうした取り組みの一つとして有用に機能させていくことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：川村学園女子大学 HP「寺子屋コホミン～公民館での小学生との学び」
(URL：www.kgwu.ac.jp/2022/10/08/寺子屋コホミン～公民館での小学生との学び/)

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学では、平成19(2007)年に我孫子市及び我孫子市教育委員会と協定を締結し、人材の育成と住みよいまちづくりの発展を目指し、市のまちづくりの施策の推進と大学の目指す社会との連携や地域貢献活動を目的に、その達成のため、お互いに協力し推進をはかり、市立小中学校における学習補助としての学生ボランティアの活用などを実施している。(資料3-2-1)。各学科では、これまで築いてきた地域、教育委員会との関係の中で、教育の現場に出向き学ぶことができる機会を充実させている。

〔長所・特色〕

上記のような機会を生かし、教科の実践的指導力を育成する工夫を挙げる。

文学部国際英語学科では、「英語科教育法Ⅰ」において、地元の公立中学校へ授業見学に行き、現職の教員による授業を参観している。また、「21CoDOMoS」(学芸大学作成)を視聴し、中学校英語科の授業展開を学習している。史学科では、「教職インターンシップ」や教員養成事業「ちば！教職たまごプロジェクト」に参加する学生に対して学科として支援と指導を行っている。

教育学部幼児教育学科、生活創造学部生活文化学科では、さまざまな講演会、体験活動、ワークショップ、ボランティア活動を通じて指導計画の立案や取得する教諭免許状の特性に応じた実践的指導力を育成につなげている。

教育学部児童教育学科における「学校体験活動」では、我孫子市内の学校参観、元養護教諭を招き、「アレルギー対応(含む：エピペンを打つ練習)・救急対応・健康診断・予防接種」・「いのち ところ からだの授業展開」等の講話を実施した。「特別支援教育」では、地域の公民館で行われている、障害を持つ人の障害学習講座や、我孫子特別支援学校のボランティアに積極的に参加し、障害をもつ人と実際にふれあう機会を多く設けて、講義と実際の障害者の様子を往還的に学べるように工夫している。学校外での学びとして教育実

習に次いで大きな規模で行われているのが、3年次で履修する「教職インターンシップ」である。これは前述の通り、千葉県が行っている「ちば！教職たまごプロジェクト」や茨城県が行っている「教師塾」等に参加することを主眼とした科目である。

〔取り組み上の課題〕

本学の教職課程では、学生の実践的指導力を育成するために地域や学校外との連携が積極的に行われていることが明らかとなった。教育実習や各種ボランティアのみならず、各学科においても地域や学校外との連携を通して学びの機会を充実させている。この良好な関係は、各教員がもつパイプによって維持されている本学の教職課程の財産といってもいいであろう。したがって、これをいかに維持し、安定したものにしていくかが今後の課題となってくるだろう。また、地域や学校外との連携という点でいえば、どうしても学科において取り組みに差が出てきてしまう。たとえば「教職インターンシップ」は、児童教育学科と中高教職課程の両方で開講されているが、児童教育学科における受講率はおよそ7割（令和4（2022）年度3年生のうち）に達するのに対し、中高教職課程の受講者はわずかである。

実践的指導力の育成についていえば、こうした実践の場の学びにおける理論の重要性を指摘する声が教員から聞かれた。実践的指導力を高めるうえで、各種の体験的な学びが重要であることは言うまでもない。とはいえ、そうした体験を十全に学びに活かすためには、その意味を理解し解釈するための理論が重要である。理論が実践を下支えし、深みを与えてくれるのである。学生自身の理論と実践の往還を可能とするためにも、教員同士が連携して学生の学びを援助することが求められていると言えよう。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：川村学園女子大学「令和3年度 自己点検・評価報告書」p.82

(URL: <https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/09/2021jikotenken.pdf>)

Ⅲ. 総合評価

文学部国際英語学科では、英語運用能力のみならず幅広い能力をそなえた教員を養成するために、プレゼンテーション能力の向上や異文化理解などを旨とし、そのような学びとアクティブ・ラーニングやグループワーク、ICT 機器の活用能力といった教員に必要な能力の育成が両立可能となるような工夫が見られる。史学科では地理・歴史に関する知識や教養の個人的社会的意義まで伝えられるような教員の養成を目指し、学科と教職課程のカリキュラムが有機的に構築されている。心理学科では、人と社会を総合的に理解することで公民科教員の養成を目指している。とはいえ、現状において学生にとって教員免許状の取得は決してプライオリティの高いものであるとは言えない。日本文化学科では、教職課程履修者のために課外補習を行ったり、Teams を用いたネットワーク作りを目指したりといった工夫がみられた。

教育学部幼児教育学科では、きめ細やかな指導がなされている。また、成績のふるわない学生に再聴講を認めるなど、資格を与えるのではなく、教員となることを見据え力を身に付けさせることを主眼とした教育がなされている。児童教育学科では、実務家教員も多く、授業の多くが教育現場を強く意識したものとなっている。

生活創造学部生活文化学科では、中高の家庭科一種と栄養教諭二種の教職課程を有している。教員の勉強会や学生の交流会など、教職課程の質を高める独自の試みを行い、地域との連携を積極的に行っている。中高家庭科の教職課程は、令和元（2019）年度より開始された本学で最も新しい教職課程で、今年度、1名の教員採用試験合格者を輩出することができた。

全体としては、各学科ともアクティブ・ラーニングや情報活用能力、ICT 活用能力といった、現在教員に求められている資質・能力の育成に対応する学びを提供する工夫がなされている。他方で、学生の指導の細やかさ、地域をはじめとした学校の外部との連携といった観点においては、学科間でばらつきが見られる。今後は、SD や FD などの研修、あるいはこの自己点検などを通して、学科の壁を越えて有益な情報やスキルを共有することが求められていると言えるだろう。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学において、年度当初に教職課程委員会によって教職課程自己点検評価の実施が決定され、「教職課程自己点検評価報告書」（以下「報告書」と記す）の作成に向けて教職センターと修学支援室のメンバーで構成されたワーキンググループを立ち上げた。ワーキンググループの打ち合わせ（令和4（2022）年5月11日）において、「報告書」作成のプロセスとスケジュールを確認した。ここで、本学の規模ならびに教職課程の運営状況に鑑みて、フォーム2を用いること、各学科からの情報を集約して「報告書」を作成する方針が確認された。「報告書」作成は初めてのことであるが、適切に作成することが求められるため、全国私立大学教職課程協会や関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会のシンポジウム等で提示される情報をフォローし、こうした情報は必ず教職センターで共有し、各学科の担当者が情報にアクセスできるように努めた。8月～9月にかけて、各学科の教職課程における自己点検を実施した。そして、10月以降にそれらをワーキンググループにおいて取りまとめ、「報告書」としてまとめる作業を行った。並行して、「報告書」に必要な各種データの収集も行った。ワーキンググループにおいて各学科の自己点検の取りまとめが進展した段階で、教職センター会議（令和5（2023）年1月25日）にて自己点検の内容を共有した。また同日には、全学的に実施されたFDにおいて、「教職課程自己点検評価について」というタイトルで、ワーキンググループのメンバーによる発表を行った。このような全学的なFDの場での発表は、教職課程の教育に直接的に関わることの少ない教員に対して、教職課程の内実を知り全学的に教職課程の教育を推進していく必要性を認識してもらう上で重要な機会となった。2月～3月には「報告書」の最終的な修正等を行った。作成された「報告書」は、教職センター会議（持ち回り）及び教職課程委員会（持ち回り）で最終的な確認を行い、自己点検評価委員会並びに部局長会において、正式な「報告書」として承認された。

V 現況基礎データ一覧

令和4（2022）年5月1日現在

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 文学部					
学科・コース名（必要な場合） 国際英語学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					38名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					27名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					1名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					0名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	3名	1名	1名	1名	
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 文学部					
学科・コース名（必要な場合） 史学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					34名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					28名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					6名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					4名
④のうち、正規採用者数					1名
④のうち、臨時的任用者数					3名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	4名	2名	2名		
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学					
学科・コース名（必要な場合） 心理学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					46名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					33名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					0名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					0名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6名	2名			
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学					
学科・コース名（必要な場合） 日本文化学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					22名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					14名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					3名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					1名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					1名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	4名	2名			
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 教育学部					
学科・コース名（必要な場合） 幼児教育学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
⑤ 昨年度卒業生数					60名
⑥ ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					58名
⑦ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					57名
⑧ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					24名
④のうち、正規採用者数					24名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	3名	3名	3名		1名
相談員・支援員など専門職員数 2名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 教育学部					
学科・コース名（必要な場合） 児童教育学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					14名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					13名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					14名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					13名
④のうち、正規採用者数					12名
④のうち、臨時的任用者数					1名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6名	3名	1名		
相談員・支援員など専門職員数 4名					

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 生活創造学部					
学科・コース名（必要な場合） 生活文化学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
⑨ 昨年度卒業生数					31名
⑩ ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					25名
⑪ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					0名
⑫ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					0名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	7名	5名	1名		3名
相談員・支援員など専門職員数 2名					

川村学園女子大学『教職課程自己点検評価報告書』用データ

令和 4 (2022)

目次

【資料1-1-1 データ1】	中高教職課程「教職課程履修カルテ」(中高英語)・・・・・・・・・・	1
【資料1-1-2 データ2】	児童教育学科「教育原理」のシラバス・・・・・・・・・・	12
【資料1-2-3 データ3】	「令和3年度 教職科目の授業評価アンケートの分析」・・・・・・・・・・	13
【資料1-2-4 データ4】	FD「教職課程自己点検評価について」資料・・・・・・・・・・	17
【資料2-2-1 データ5】	千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」	20
【資料2-2-2 データ6】	千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」開催通知・・・・・・・・・・	21
【資料2-2-3 データ7】	千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」開催通知	22
【資料2-2-4 データ8】	令和4年度「夏期教員採用試験講座」時間割・・・・・・・・・・	23
【資料2-2-5 データ9】	令和4年度「春期教員採用試験講座」時間割・・・・・・・・・・	24
【資料2-2-6 データ10】	「教員採用試験二次対策講座」実施要領・・・・・・・・・・	29
【資料2-2-8 データ11】	「教員採用試験合格率データ」・・・・・・・・・・	31
【資料2-2-9 データ12】	川村学園女子大学児童教育学科「教員採用試験合格記」より表紙、目次	32

教職課程履修カルテ

（2021年度 入学者用）

学部	学科	学校種	免許種(教科名)
学生番号()		()一種	
フリガナ 氏名		()一種	
		()一種	

教職課程は、卒業後、教師になることを希望している学生のために設けられている課程です。

教職課程の履修に当たっては、教員志望の強い意志に加え、『履修案内』に記載されている条件をすべて満たすことが必要となります。

この「教職課程履修カルテ」は、あなたが教師になるために必要な単位を修得しているか、どのような自己課題があるかを記録し見渡すためにつくられています。

「教職課程履修カルテ」の書き方や利用の仕方については、教職ガイダンスで説明を行いますのでよく聞きましょう。そして、「教職課程履修カルテ」への記入を通して、振り返りと研鑽を重ねて学習の成果を上げるように努力してください。

教員免許状取得 必須要件

教育職員免許法施行規則第66条の6で定められている教員免許取得の条件となる科目。
必ず1・2年次に修得すること。

免許法上の規定	開設授業科目		修得 年次	成績
	(単位数)			
日本国憲法 2単位	「日本国憲法」	2		
体育 2単位	「健康スポーツ論」	2	2以上	
	「スポーツ(1)～(8)」	2		
外国語コミュニケーション 2単位	「英語 I (1)・(2)」	2以上		
	「英会話(1)・(2)」			
	「EIA I (1)・(2)」※			
	「EIA II (1)・(2)」※			
情報機器の操作 2単位	「情報処理(1)・(2)」	2以上		

※ 「EIA I (1)・(2)」 「EIA II (1)・(2)」は国際英語学科のみ。

<教職課程単位数取得状況確認表>

免許法施行規則に定める科目区分等	教科	校種	最低履修単位数	取得単位数					計
				1年次	2年次	(累計)	3年次	(累計)	
教育の基礎的理解に関する科目等	全教科共通	中学	33			()		()	
		高校	29			()		()	
教科及び教科の指導法に関する科目	英語	中・高共通	32			()		()	
	社会	中学	38			()		()	
	地理歴史	高校	24			()		()	
	公民	高校	24			()		()	
	国語	中学	28			()		()	
		高校	24			()		()	
	家庭	中学	29			()		()	
		高校	31			()		()	
「大学が独自に設定する科目」必修(介護等体験)	全教科共通	中学	1			()		()	
「大学が独自に設定する科目」の選択科目、または最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」	全教科共通	中学	3			()		()	
		高校	12			()		()	
総計	全教科共通	中・高共通	59			()		()	

<成績状況確認表>

確認項目	1年次	2年次	3年次	4年次
通算GPA(※1)				
「教科及び教科の指導法に関する科目」の成績がB以上の割合(B以上の単位数/累計単位数)(※2)			(前期)	

※1・・・教育実習を行う前年度までの通算GPAが2.0以上でなければならない

※2・・・原則として、3年次前期終了時点で「教科及び教科の指導法に関する科目」の4/5が「B」以上でなければならない

教育の基礎的理解に関する科目等(全教科共通)

免許法施行規則に定める科目区分等		開設授業科目	単位数		修得年次	成績評価	備考	自己評価
科目区分	単位数		必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	10	教育原理	2					1・2・3
		学校と教育の歴史		2				1・2・3
		教職論	2					1・2・3
		学校経営論(学校安全を含む)	2					1・2・3
		教育心理学	2					1・2・3
		特別支援教育	2					1・2・3
		教育課程論	2					1・2・3
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中10 高8	道徳の理論と指導法	2				中免のみ	1・2・3
		総合的な学習の時間の指導法	2					1・2・3
		特別活動の指導法	2					1・2・3
		教育方法学・技術論	2					1・2・3
		教育とメディア (ICT機器活用演習)		2				1・2・3
		生徒指導の理論と方法 (中・高)	2					1・2・3
		教育相談	2					1・2・3
		進路指導・キャリア教育	2					1・2・3
教育実践に関する科目	中5 高3	教育実習演習(事前・事後指導)	1					1・2・3
		教育実習Ⅰ	2					1・2・3
		教育実習Ⅱ		2			中免必修	1・2・3
	2	教職実践演習	2					1・2・3
合計	中27 高23	中学校 33単位以上 高等学校 29単位以上						

【自己評価欄】 1:劣っている、2:ふつう、3:優れている

中学校一種免許「英語」・高等学校一種免許「英語」

＜大学が独自に設定する科目＞

免許法施行規則に定める科目区分	開設授業科目名	単位		修得年次	成績評価	自己評価
		必修	選択			
大学が独自に設定する科目	介護等体験(事前・事後指導)	(中)1				1・2・3
			(高)1			1・2・3
	道徳の理論と指導法		(高)2			1・2・3
	教職インターンシップ(事前・事後指導)		4			1・2・3
	学校体験活動		4			1・2・3
	イギリス文化史(1)		2			1・2・3
	アメリカ文化史(1)		2			1・2・3
	言語学入門(1)		2			1・2・3
	国際関係入門(1)		2			1・2・3
	国際関係入門(2)		2			1・2・3
	ニュージーランド研修		2			1・2・3

【中学校免許の場合】「大学が独自に設定する科目」の選択科目または最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて3単位以上を修得すること

【高等学校免許の場合】「大学が独自に設定する科目」の選択科目または最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて12単位以上を修得すること

＜教科及び教科の指導法に関する科目＞(中高共通)

免許法施行規則に定める科目区分	開設授業科目名	単位		修得年次	成績評価	自己評価
		必修	選択			
英語学	英語音声学(2)	2				1・2・3
	英文法Ⅱ	2				1・2・3
	英語学特講	2				1・2・3
英語文学	英語文学演習	2				1・2・3
英語コミュニケーション	リーディングⅢ	2				1・2・3
	ライティングⅢ	2				1・2・3
	リスニングⅢ	2				1・2・3
	リサーチ&プレゼンテーション	2				1・2・3
	スピーキング	2				1・2・3
異文化理解	国際文化特講Ⅰ(イギリスと文化)	2				1・2・3
	国際文化特講Ⅱ(アメリカと文化)	2				1・2・3
	異文化コミュニケーション実践	2				1・2・3
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅱ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅲ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅳ	2				1・2・3

免許法施行規則に定める科目区分のなかから、合計32単位以上を修得すること

【自己評価欄】 1:劣っている、2:ふつう、3:優れている

＜ 教 職 理 解 （ 1 ） ＞

自己評価欄： 1 = 劣る 2 = ふつう 3 = 優れている

項目	指標	自己評価		
		2年次	3年次	4年次
(1) 教職に対する 自覚と熱意	① 教育の仕事に対する理解	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教職の使命の自覚	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 教職を目指す姿勢	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(2) 教養・人格	① 一般教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 人間関係	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 責任感・協力的態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 言語・服装・礼儀	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(3) 生徒理解	① 生徒理解への努力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 生徒に接する態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(4) 教科の指導	① 専門教科の教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教材研究の熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 指導計画の作成	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 表現力・指導技術・授業の展開	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(5) 教科外の指導	① 教科外活動への関心・参加	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 学級・HR運営への協力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
上記のデータを参考に、教職を目指す上での今後の課題 (2年次)				

(3年次)				

(4年次)				
課題を克服するための具体的な方法 (2年次)				

(3年次)				

(4年次)				

< 教 職 理 解 (2) >

3年次の授業がすべて終了後に記入すること

<input type="checkbox"/> 学習指導案について
.....
.....
<input type="checkbox"/> 学校教育をとりまく課題
.....
.....
<input type="checkbox"/> 望ましい教師像の探究
.....
.....
<input type="checkbox"/> 学習指導要領の「総則」を見直す
.....
.....
<input type="checkbox"/> 教育に関する時事問題に関心をもつ
.....
.....
<input type="checkbox"/> 教育法規のポイントを見直す
.....
.....
<input type="checkbox"/> 生徒指導・学級経営のあり方を考える
.....
.....
<input type="checkbox"/> 学校行事を手がかりに最近の学校について考える
.....
.....

〔教育実習演習（事前・事後指導）担当教員コメント欄〕

.....

学生番号

氏名

＜学校ボランティア＞

自己評価欄： 1=劣る 2=ふつう 3=優れている

項目	指標	自己評価		
		1年次	2年次	3年次
(1) ボランティア に対する自覚 と熱意	① ボランティアの仕事に対する理解	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② ボランティアの使命の自覚	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ ボランティアに取り組む姿勢	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(2) 集団活動	① 一般常識	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 人間関係	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 責任感・協力的態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 言語・服装・礼儀	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(3) 生徒(対象者) の理解	① 生徒(対象者)理解への努力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 生徒(対象者)に接する態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(4) ボランティア における指導 (学習支援の場合)	① 専門教科の教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教材研究の熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 指導計画の作成	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 表現力・指導技術	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(5) 教科外の指導	① 教科外活動の指導力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教科外活動への熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 学級HR運営への指導力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 学級HR運営への熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3

ボランティアを通して学んだこと

ボランティアを通して自分の課題と考えていること

学生番号 _____ 氏名 _____

<ボランティア>

A

ボランティアの名称	内 容	期 間
		年 月 日～ 年 月 日 (日間)

ボランティア体験を通して学んだこと。 (年次)
このボランティア体験を、教職にどう活かしていくのか。

B

ボランティアの名称	内 容	期 間
		年 月 日～ 年 月 日 (日間)

ボランティア体験を通して学んだこと。 (年次)
このボランティア体験を、教職にどう活かしていくのか。

学生番号 _____ 氏名 _____

〈教職関連資格〉

資格名	資格等の内容	1年次 取得	2年次 取得	3年次 取得
(1)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(2)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(3)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(4)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(5)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
〔資格を学校教育の現場でどのように活かしていくか〕				
〔4年次以降の取得予定資格〕				

教職課程関連カレンダー(予定)

教職課程関連のガイダンスや各種手続き、特別講座等の実施予定時期は概ね以下の通りです。

	1年次	2年次	3年次	4年次
前期	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス
	教職課程履修登録	教職課程履修登録	教職課程履修登録	教職課程履修登録
	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入
			たまごプロジェクト	教員採用試験特別講座
				教員採用試験申し込み
				たまごプロジェクト
				教育実習
				教員採用試験
夏期休業	夏期教員採用試験対策講座 (任意)	夏期教員採用試験対策講座 (任意)	母校への実習受入確認・内 諾書提出(母校実習希望者) 夏期教員採用試験対策講座 (必須)	
後期	他学科免許ガイダンス	3年次たまごプロジェクト申込	4年次たまごプロジェクト申込	免許状一括申請ガイダンス①
			教員採用試験特別講座	免許状一括申請ガイダンス②
			教育実習必要単位数チェック	免許状一括申請ガイダンス③
春期休業	介護等体験ガイダンス	教育実習ガイダンス		
	介護等体験申込			

- ・日程変更や新たな企画が発生する場合があります。掲示板や大学からのメール等で各自確認してください。
- ・ガイダンスの無断欠席や提出物の期日を守れない場合は、教職課程の履修や教育実習の受講資格を失うことがありますので十分注意してください。

【資料1-1-2 データ2】 児童教育学科「教育原理」のシラバス

授業コード	A231003-01	科目ナンバリング	EDU21B02
科目名	教育原理		
担当教員名	山口 恭平		
単位数	2単位	授業形態	講義
学期	後期	配当年次	1年
学科	児		

養成される資質・能力	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>D P 1 : 幅広い理解 言語的理解と表現 教職の専門性と小学校の特性、小学校教員の担う役割と責任を理解している。 児童の発達段階を理解し、児童の成長に寄り添う教育課程の実現に向けた意欲と能力を有している。</p> <p>D P 2 : 専門知識 方法的理解 分析と思考力 児童教育に関する専門知識を修得し、方法論に習熟している。 教職インターンシップやボランティア活動と授業での学びを通じて、理論と実践の往還に取り組むことができる。 不登校や特別支援など多様なニーズを理解し、多面的・多角的に教育課題を検討し、それらに対応する能力を有している。</p> <p>D P 3 : 主体性 協働 社会規範 教育に関わる人々との協働を通じて、自らの役割を理解し、求められる態度、責任感を有している。 教員間や保護者、地域と連携して、学校運営や学級運営を実践する能力を有している。 自ら学び続けることの意味を理解し、今後も研修やボランティア活動などに積極的に参加する意欲を持っている。</p>
知的基礎力	論理的思考力
社会人基礎力	内省・自己修正力

到達目標	<p>①教育の基本的概念や教育の理念を理解している。</p> <p>②家族や学校に関する基礎的な歴史的知識や代表的な教育思想に関する知識を身に付け、近代公教育における今日的な教育課題を歴史的・思想的な視点から考えることができる。</p> <p>③自己の教育観を再構築する。</p>
授業の概要（目的）	教育の基本的な概念や理念について学ぶことを目的とする。具体的には、代表的な教育思想や学校制度の変遷等の歴史について学習し、そのことを通じて、今日的な教育課題について思想的・歴史的な視点から検討する。
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート

授業計画	
第1回	<p>事前学修：シラバスを読み、授業内容を理解する。【1時間】</p> <p>授業内容：オリエンテーション—これまでの教育体験（社会・家庭・学校）について考える（グループワーク）</p> <p>事後学修：配付資料の読み返し、要点をまとめる。【3時間】</p>
第2回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：教育とは何か—教育の諸概念</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第3回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：教育とは何か—教育の目的（ディスカッション）</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第4回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：子ども観の変遷—社会・家庭・学校の関係について考える</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第5回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：近代教育思想の展開①—コムニウスとルソーを中心に</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第6回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：近代教育思想の展開②—ベスタロッチを中心に</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第7回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：近代以前の教育から近代学校の登場へ（グループワーク）</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第8回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：公教育の思想と公教育の制度の発展</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第9回	<p>事前学修：これまでの資料を読み返し、要点をまとめておく。【3時間】</p> <p>授業内容：前半期の学習のまとめと補足（ディスカッション）</p> <p>事後学修：前半期の学習の要点をまとめ直す。【1時間】</p>
第10回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：日本の教育の歴史—江戸期の教育から明治期の近代教育制度へ</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第11回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：日本の教育の歴史—大正新教育を中心に</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第12回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：日本の教育の歴史—戦後教育改革</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第13回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：現代の教育改革の動向（グループワーク）</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第14回	<p>事前学修：配付資料を読み、疑問点をまとめる。【2時間】</p> <p>授業内容：現代の教育課題を歴史的・思想的な視点から捉える（ディスカッション）</p> <p>事後学修：配付資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2時間】</p>
第15回	<p>事前学修：これまでの資料を読み返し、要点をまとめておく。【3時間】</p> <p>授業内容：授業の総括と補足</p> <p>事後学修：興味深かった論点について調べる。【1時間】</p>

成績評価の方法	授業内試験2回（60%）、課題（20%）、授業への取り組み（20%）
課題に対するフィードバックの方法	課題はコメントを付けて返却する。授業内試験は採点后返却する。

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし。				毎時資料を配付する。
参考書	今井康雄（編）『教育思想史』有斐閣、2009年。その他、授業中に適宜紹介する。			
履修上の注意等	授業中のディスカッションに積極的に参加すること。 課題の作成に十分な時間を割く必要がある。			

【資料1-2-3 データ3】「令和3年度 教職科目の授業評価アンケートの分析」

令和3(2021)年度 教職科目の授業評価アンケートの分析

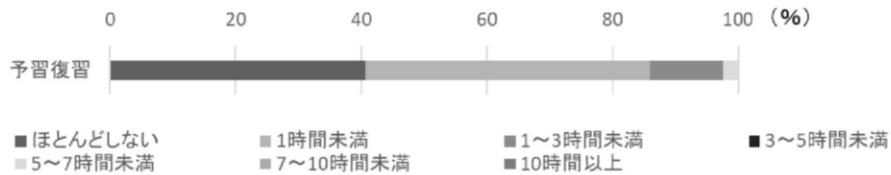
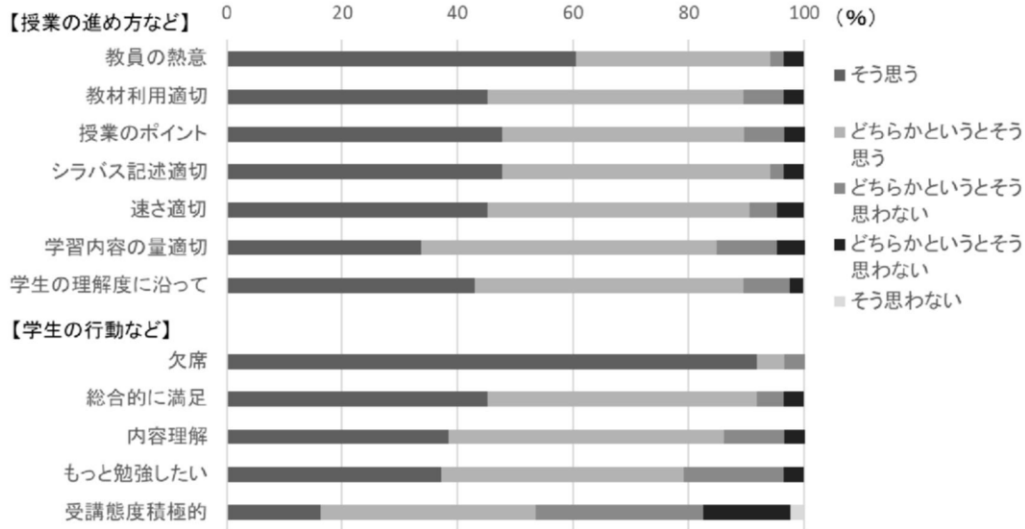
授業評価アンケートについて、「授業の進め方」に関する7項目、「学生の行動・理解」に関する6項目を用いて実施した。

【主な結果】

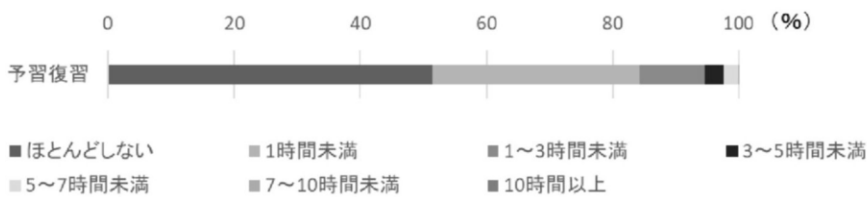
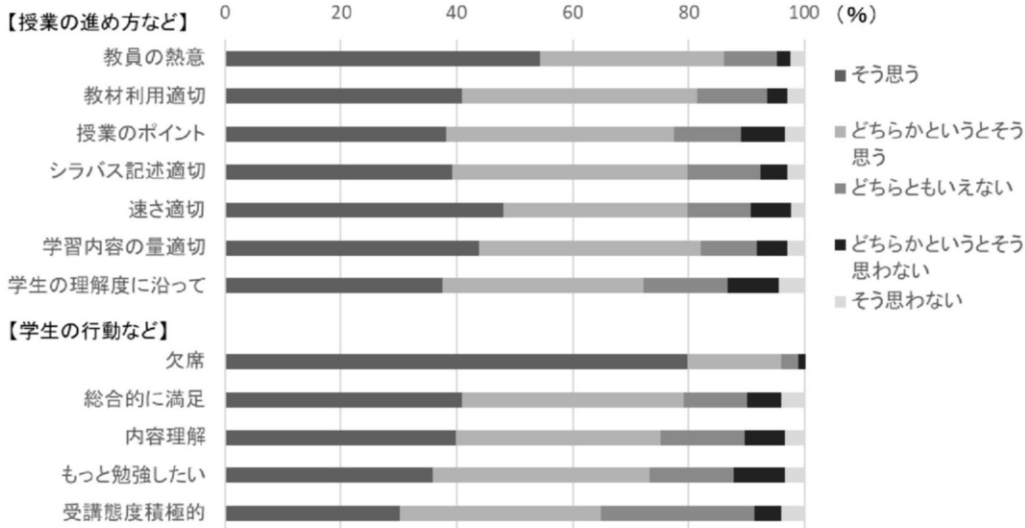
・「授業の進め方」に関する7項目では、幼稚園、小学校、中学・高等学校で、前期、後期ともに、全ての項目で約75%以上の学生が適切である（そう思う、どちらかというと思う）と回答した。一方、「学生の行動・理解」に関する6項目では、「積極的な受講態度」は、幼稚園の前期・後期、小学校の前期、中学・高等学校の前期・後期で、肯定的な回答が75%を下回っていた。また「もっと勉強したい」は、幼稚園の後期で、肯定的な回答が75%を下回っていた。さらに「予習復習」は、小学校の後期、中学・高等学校の前期・後期で、肯定的な回答が75%を下回っていた。その他の項目では75%以上が適切な行動・理解を示す回答であった。

・どの学校種でも、「予習復習」は、「ほとんどしない」「1時間未満」が多かったが、学校種間で比較すると、幼稚園、小学校より、中学・高等学校の予習復習の時間が長い傾向が見られた。

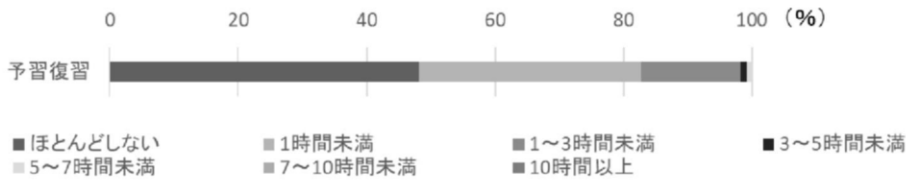
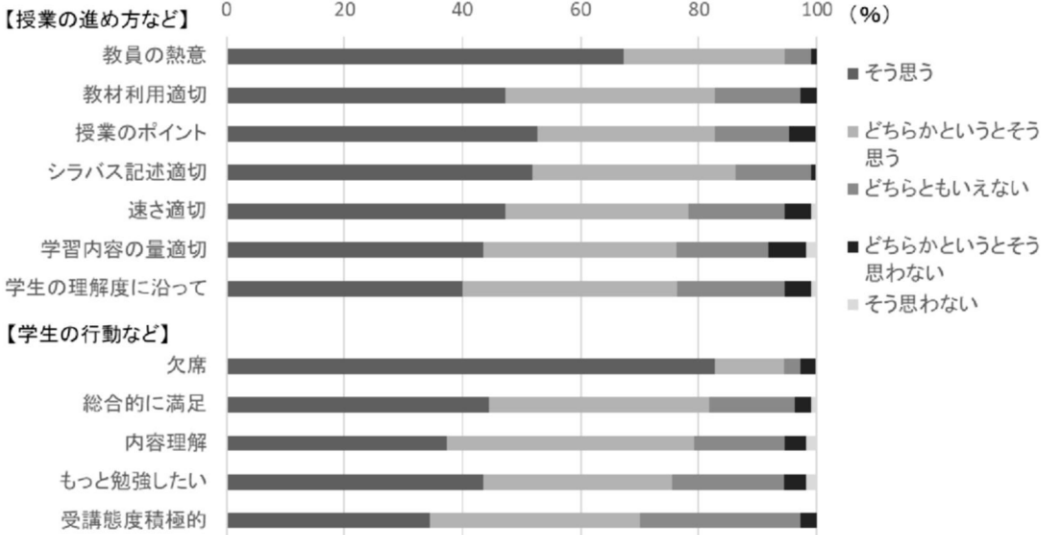
2021年度 前期 幼稚園 教育の基礎的理解に関する科目



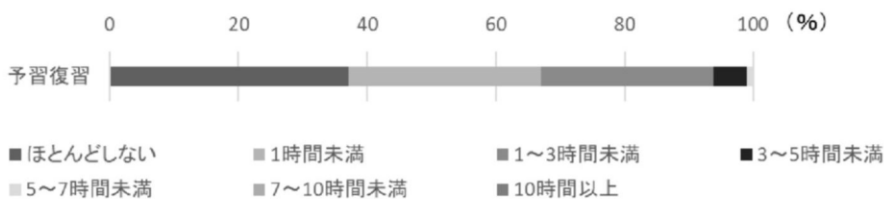
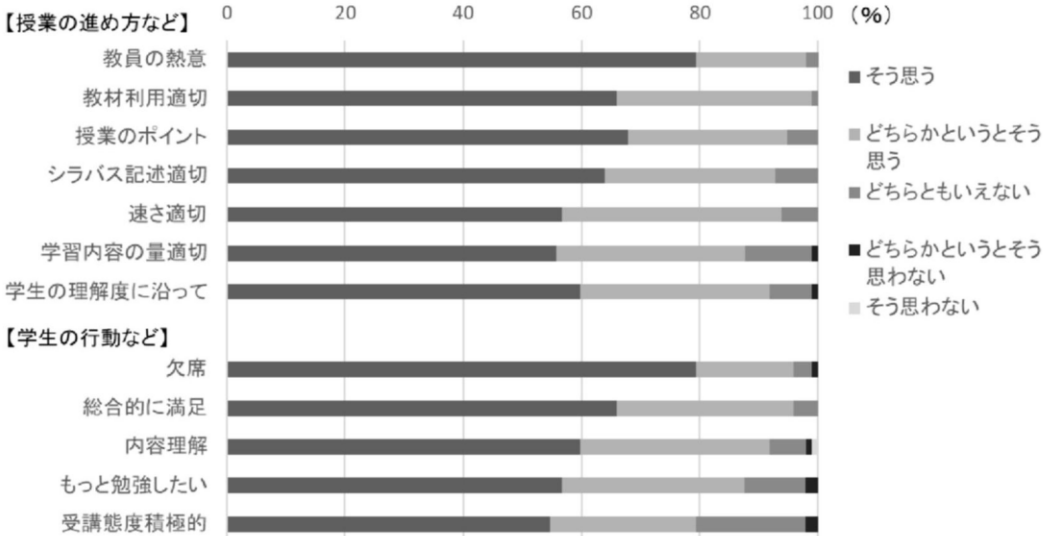
2021年度 後期 幼稚園 教育の基礎的理解に関する科目

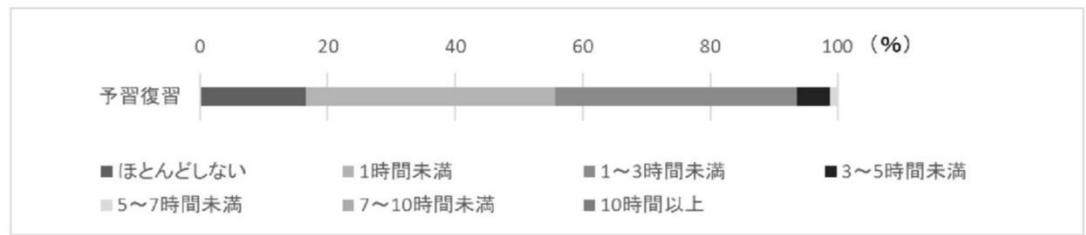
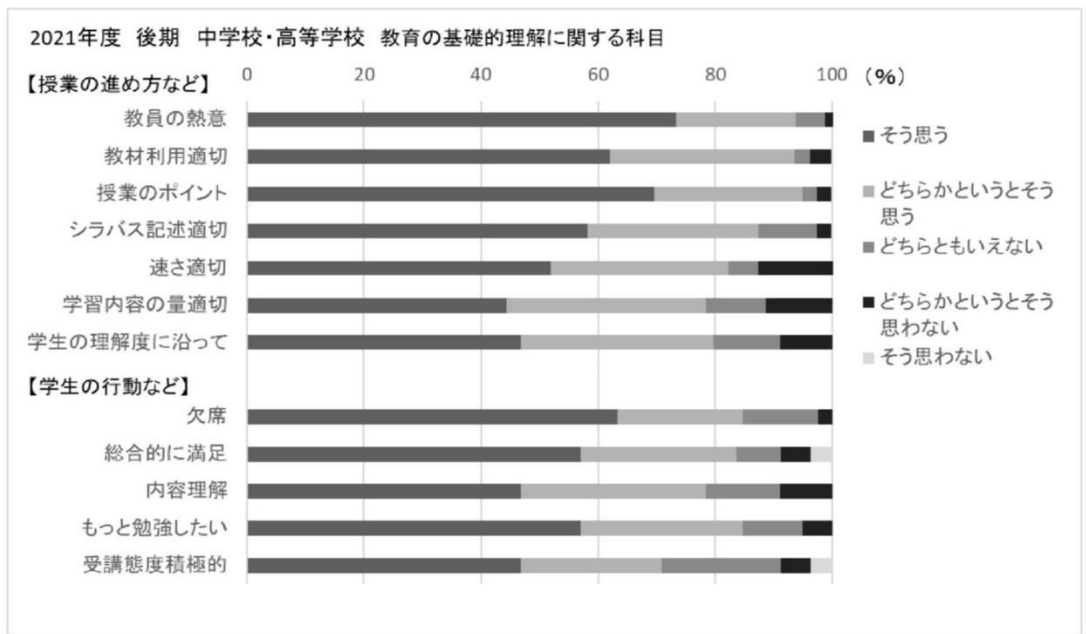
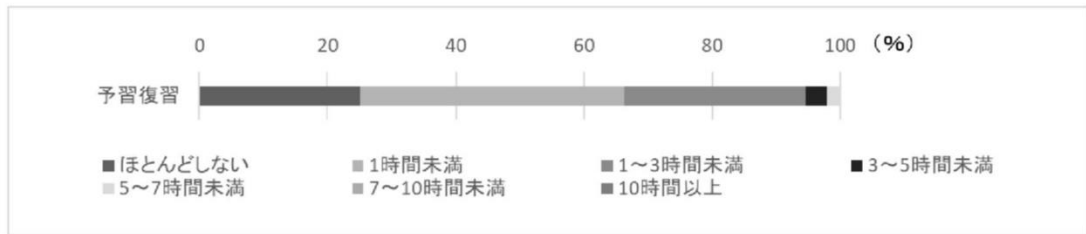
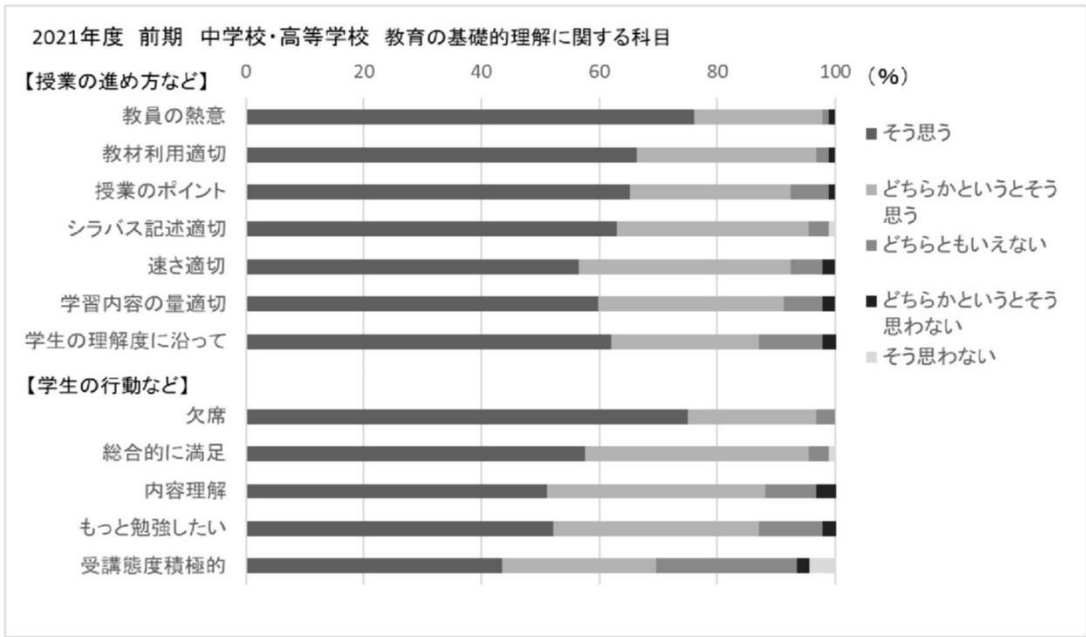


2021年度 前期 小学校 教育の基礎的理解に関する科目



2021年度 後期 小学校 教育の基礎的理解に関する科目





教職課程自己点検評価について

児童教育学科 山口恭平

1

教職課程自己点検評価報告とは

- ◆2021年5月「教育職員免許法施行規則」が改正公布・施行

「認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教員知識、教育実習並びに教職及び指導の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」
(免許法施行規則第22条8)

→課程認定大学において、2022年度より教職課程の自己点検・評価が義務化された

教職課程自己点検評価は、本来、教職課程認定を受けている大学が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、社会的責任を果たしていくため、自らの理念・目的に照らして教育活動等の状況について自己点検し、現状を的確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点などの自己評価を行うことです。
(全私教協『「教職課程自己点検評価」の手引き』p.3)

2

何をどのように評価するのか？

- ◆文部科学省「**教職課程自己点検評価ガイドライン**」

文科省ガイドラインに適合しつつ、より柔軟に私立大学の自己点検評価に適した形のガイドラインを！

- ◆全国私立大学教職課程協会による「**教職課程自己点検評価基準**」

この評価基準に基づいた
全私教協『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き』

3

何をどのように評価するのか？

- ◆「**教職課程自己点検評価基準**」（3基準6項目）

【基準領域1】教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有
基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

【基準領域2】学生の確保・育成・キャリア支援
基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成
基準項目2-2 教職へのキャリア支援

【基準領域3】適切な教職課程カリキュラム
基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

4

『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き』

- ◆「教職課程自己点検評価基準」を核として、「報告書」に盛り込むべき内容を定め、フォーマット化

- I 教職課程の現況及び特色
- II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

前スライドの3基準6項目について、「**取り組み報告書**」を参考に、「現状説明」「長所・特色」「取り組み上の課題」に分けて、学科ごとに記述
- III 総合評価
- IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス
- V 現況基礎データ一覧

5

本学における「報告書」作成の過程

- ◆年度開始直前にワーキンググループを立ち上げ、「報告書」作成のプロセス・スケジュール等を確認
- ◆2月 各学科へのアンケート項目選定
- ◆8月～9月 各学科によるアンケート記入
- ◆10月～現在
 - ・各学科によるアンケートを取りまとめ、自己点検評価を作成
 - ・各種データの収集
- ◆3月 「報告書」を大学HPにおいて公開

6

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」

1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

- ◆各課程ごとに、目標が定められている。
- ◆目的・目標の共有の場、ツールとして・・・
 - ・教職課程ガイダンスを初めとしたガイダンス・シラバス
 - ・教職課程履修カルテ
- ◆特に授業における工夫・取り組みの回答が多い
 - 教師像を明確にした授業

7

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」

1-2 教職課程に関する組織的工夫

- ◆教職課程に関わる組織は整備されている（教職課程委員会、教職センター・・・）
- ◆授業評価アンケートの活用
 - 教員採用試験対策講座実施『教職センター年報』など
- ◆FDやSDの取り組み
- ◆教職課程教育を行う上での組織的な施設・設備の整理
 - ※特に、ICT教育環境
 - ・Microsoft 365 特にTeamsの活用など
 - ・デジタル教科書
 - ・電子黒板

8

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」

2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

- ◆ガイダンス 教職課程ガイダンス、その他ガイダンス
- ◆教育実習履修基準の明確化、周知
- ◆少人数で細やかな指導
 - 学生の自覚、適性の把握

9

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」

2-2 教職へのキャリア支援

- ◆本学では、組織的にキャリア支援を行う体制が整っている
- 情報の提供 外部講師によるガイダンス（「先生っていいもんだ」）、授業など
- 教員採用試験対策講座 教職センター主催の夏期（教職教養）、夏期二次対策、冬期（専門）、さらに日常的に行われる非公式なものも含めて
- 高い合格率の実現
- 『教員採用選考試験体験記』の配布
- Gオフィスの実施 卒業生同士、卒業生と在校生の繋がり
 - 各学科でも特色ある取り組み

10

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

- ◆建学の精神を具現する特色ある教職課程教育
- ◆教職課程科目相互・学科科目等との系統性を図り、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラム編成
- ◆ICT機器の活用、情報活用能力の育成を可能とする指導
- ◆アクティブ・ラーニングにより課題発見・課題解決の力量を育成
- ◆教育実習
- ◆「教職課程履修カルテ」→「教職実践演習」

11

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

- ◆ICT機器の活用、情報活用能力の育成を可能とする指導
 - ・PowerPointを活用したプレゼン能力の育成
 - ・Teams、Formsの活用
 - ・ICT機器の活用方法
 - ・プログラミング教育を視野に入れた内容
 - 資料、課題の配布・提出・フィードバック
 - オンラインでの模擬授業
 - クラウドの活用
- ◆アクティブ・ラーニング
 - ・アクティブ・ラーニングが科目の特質に応じて取り入れられている
 - ・工夫されたアクティブ・ラーニングが行われている

12

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-2 実践的指導力養成と地域との連携

- ◆ 我孫子市・我孫子市教育委員会との協定
- ◆ 地域や教育委員会との関係

—学生の実践的指導力養成に資する実践的な学びの場が充実—

- ・現場にて実践的指導力を育成するための機会を充実させる
 - 「ちば」教職実習プロジェクト等

(例)「介護等体験」「学校体験活動」「教職インターンシップ」
→ポランティアを単位化
※現場の先生方からも、意欲的な学生を迎えられることに好意的な声

13

「報告書」作成のメリット

- ◆ 教職課程教育に関わっていても知らなかったことを知る機会
- ◆ 他の学科での取り組みについて知ることができる
→参考にするべき点を自学科、自らの授業へ取り入れることが可能

組織的に教職課程の質を高めていくための「自己点検」

- ◆ 教職課程の取り組みについて知っていただく機会

14

ご静聴ありがとうございました！

15

【資料2-2-1 データ5】千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」

4月27日（水）千葉県・千葉市の教員採用試験に関する説明会

日 時：2022年4月27日（水）
【16：10～17：40】

場 所：11104教室

講 師：千葉県教育庁 教職員課 任用室 管理主事

持ち物 2022年度の教員採用試験実施要綱
⇒千葉県教育委員会のHPよりダウンロード可

筆記用具

【注】当日はリクルートスーツを着用のうえ出席してください。
中高教職課程の4年次生で当日出席できない場合は、事前に
担当教員へ必ず申し出て下さい。

小・中・高 教職課程履修者対象

2022年10月24日

教職センター

千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」実施について

- 内 容： 1.千葉県の求める教員像について
2.教育施策について
3.教員研修について
4.教員採用候補者選考の現状と今後について
5.教員の魅力
6.望ましい教員の在り方 等

講 師：千葉県教育庁 教育振興部 教職員課小中学校人事室任用班
管理主事 梅原 義秀 先生

日 時：2022年12月14日（水曜日）
16時10分～17時40分

場 所：11104教室
※ 万一変更となる場合は再度お知らせします。

※原則として、小（1～3年）・中・高（2・3年生）の教職課程履修者は、必ず出席してください。

※当日は筆記用具を持参のうえ、リクルートスーツ着用で参加してください。

小・中・高 教職課程履修者対象

2022年10月18日

教職センター

千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」実施について

講師：千葉県教育庁 東葛飾教育事務所
菅井 管理課長

日時：2022年11月9日（水曜日）
16時10分～17時40分

場所：11104教室
※ 万一変更となる場合は再度お知らせします。

※原則として、小（1～3年）・中・高（3年生）は、必ず出席してください。
※当日は筆記用具を持参のうえ、リクルートスーツ着用で参加してください。

以上

2022年度 夏期教員採用試験対策講座 時間割 ←

≪小学校・中学校・高等学校 全教免共通≫←

教職教養←	9/6(火)←	9/8(木)←	9/9(金)←
1限← 10:00～← 11:00←	教育時事①← (傾向と対策) ← 【山口祐子先生】 ←	教育法規①← (概説) ← 【田中聡先生】 ←	教育心理①← (傾向と対策) ← 【佐藤哲康先生】 ←
2限← 11:10～← 12:10←	教育時事②← (問題演習と解説) ← 【山口祐子先生】 ←	教育法規②← (問題演習と解説) ← 【田中聡先生】 ←	教育心理②← (問題演習と解説) ← 【佐藤哲康先生】 ←
3限← 13:00～← 14:00←	教育原理← (学級経営・学校経営を含む実践的問題) ①← (傾向と対策) ← 【横山 悦子先生】 ←	教育原理(教育史) ①← (傾向と対策) ← 【山口恭平先生】 ←	特別支援教育①← (傾向と対策) ← 【向野光先生】 ←
4限← 14:10～← 15:10←	教育原理← (学級経営・学校経営を含む実践的問題) ②← (問題演習と解説) ← 【横山 悦子先生】 ←	教育原理(教育史) ②← (問題演習と解説) ← 【山口恭平先生】 ←	特別支援教育②← (問題演習と解説) ← 【向野光先生】 ←

*使用教室：9月6日(火) ---5107教室 ←

9月8日(木) ---4208教室←

9月9日(金) ---4208教室←

春期 教員採用試験対策講座時間割

≪1 コマ 90 分≫

英語科教免取得希望者用

〔中高〕	2/3 (金)	2/9(木)	2/10 (金)
1 限 8:40~ 10:10	英会話 【 W. キスチャック先生】	文法・語法 (動名詞・分詞) 【菱田信彦先生】	文法・語法 (時制) 【小山久美子先生】
2 限 10:20~ 11:50	英会話 【 W. キスチャック先生】	文法・語法 (仮定法) 【菱田信彦先生】	文法・語法 (不定詞) 【小山久美子先生】
3 限 12:50~ 14:20	文法・語法 (関係詞) 【佐藤翔馬先生】	長文読解 (下線部問題) 【小泉朝子先生】	長文読解 (正誤問題) 【倉林直子】
4 限 14:30~ 16:00	文法・語法 (比較級) 【佐藤翔馬先生】	長文読解 (空所補充) 【小泉朝子先生】	長文読解 (並べ替え) 【倉林直子先生】

*使用教室：ゼミ室 2

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1コマ60分》

国語科教免取得希望者用

[中高]	2/6 (月)	2/9 (木)	2/10 (金)
1限 10:00~ 11:00	漢字・文法 (概説・問題) 【長崎靖子先生】	古文 (概説・問題) 【千野裕子先生】	文学史(近現代) (概説・問題) 【山名順子先生】
2限 11:10~ 12:10	漢字・文法 (概説・問題) 【長崎靖子先生】	古文 (概説・問題) 【千野裕子先生】	文学史(近現代) (概説) 【山名順子先生】
3限 13:00~ 14:00	現代文 (概説・問題) 【長崎靖子先生】	古文 (概説・問題) 【千野裕子先生】	漢文 (問題・解説) 【山名順子先生】
4限 14:10~ 15:10	現代文 (概説・問題) 【長崎靖子先生】	古文 (概説・問題) 【千野裕子先生】	漢文 (問題・解説) 【山名順子先生】
5限 15:20~ 16:20	現代文 (概説・問題) 【長崎靖子先生】	文学史(古典) (概説・問題) 【千野裕子先生】	漢文 (概説・問題) 【山名順子先生】

*使用教室：4102教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

＜1コマ60分＞

社会科系教免取得希望者用

[中高]	2/8(水)	2/9(木)	2/10(金)
1限 10:00~ 11:00	地理 【君島俊克先生】	日本史 【西川誠先生】	世界史 【高津純也先生】
2限 11:10~ 12:10	地理 【君島俊克先生】	日本史 【西川誠先生】	世界史 【高津純也先生】
3限 13:00~ 14:00	地理 【君島俊克先生】	経済 【手塚崇子先生】	世界史 【高津純也先生】
4限 14:10~ 15:10	地理 【君島俊克先生】	経済 【手塚崇子先生】	世界史 【高津純也先生】
5限 15:20~ 16:20		日本史 【辻浩和先生】	日本史 【辻浩和先生】

*使用教室：4103教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1コマ90分》

小学校教免取得希望者用

[小学校]	2/6 (月)	2/8 (水)	2/9 (木)
1限 8:50~ 10:20	数学 【田中 聡先生】	国語 【横山 悦子先生】	理科 【加藤 美由紀先生】
2限 10:30~ 12:00	数学 【田中 聡先生】	国語 【横山 悦子先生】	理科 【加藤 美由紀先生】
3限 12:50~ 14:20	社会 【山口 恭平先生】	/	英語 【小山 久美子先生】
4限 14:30~ 16:00	社会 【山口 恭平先生】	/	英語 【小山 久美子先生】

*使用教室： 4104教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1コマ60分》

家庭科教免取得希望者用

[中高]	2/7 (火)	2/8 (水)	2/9 (木)
1限 10:00~ 11:00	家族 (概説・問題) 【佐藤真弓先生】	食生活論 (概説・問題) 【齋藤美重子先生】	消費・環境 (概説・問題) 【齋藤美重子先生】
2限 11:10~ 12:10	家族 (概説・問題) 【佐藤真弓先生】	食生活論 (概説・問題) 【齋藤美重子先生】	消費・環境 (概説・問題) 【齋藤美重子先生】
3限 13:00~ 14:00	住生活論 (概説・問題) 【佐々木唯先生】	衣生活論 (概説・問題) 【高橋裕子先生】	保育 (概説・問題) 【叶内茜先生】
4限 14:10~ 15:10	住生活論 (概説・問題) 【佐々木唯先生】	衣生活論 (概説・問題) 【高橋裕子先生】	保育 (概説・問題) 【叶内茜先生】
5限 15:20~ 16:20	2次試験対策 調理実習 【齋藤美重子先生】	2次試験対策 被服実習 【高橋裕子先生】	総括 【叶内茜先生・ 齋藤美重子先生】

*使用教室：4105教室

令和4年度 教員採用選考試験 二次対策講座 実施計画

教職センター

1 ねらい

- (1) 受験者全員で協力し、二次選考突破を目指す。
- (2) 各自治体の二次選考に合った対策を経験し、活かす。

2 二次試験内容

千葉…模擬授業（構想5分、模擬6分）、個人面接（30分）
東京…集団面接（15分）、個人面接（単元計画の説明含む）（30分）
茨城…論文（60分、800字）、集団面接（45分）、個人面接（模擬授業・場面指導含む）（30分）
栃木…作文、集団面接、個人面接、実技試験
北海道…教科指導法（記述）、個人面接Ⅰ、Ⅱ

3 期日・内容・会場（昨年度使用教室4211、4212、4213、4214）

- (1) 期日（3日間）…8月8日（月）、8月9日（火）、8月10日（水）
- (2) 時程（9：00～16：30）

9：00～9：15 ○全体指導（4211）…司会<田中>
・教職センター長挨拶 or 教職課程委員長挨拶
・二次試験への心構え 山口（祐）
・日程等の説明 田中
○会場設営…向野4211、田中4212、横山4213、山口（祐）4214

① 9：20～10：20 ② 10：30～11：30

- 個人面接①4211 向野・奥田…児教（4名）
- 個人面接②4212 横山・山口（恭）…児教（4名）
- 個人面接③4213 田中・松本…中高（4名）
- 模擬授業①4214 山口（祐）・加藤…面接室以外の全員（控室兼ねる）

12：30～13：30 ○昼食・休憩

③ 12：30～13：30 ④ 13：40～14：40 ⑤ 14：50～15：50

- 個人面接①4211 向野・奥田…児教（6名）
- 個人面接②4212 横山・山口（恭）…児教（6名）
- 個人面接③4213 田中・松本…中高（6名）
- 模擬授業①4214 山口（祐）・加藤…面接室以外の全員（控室兼ねる）

※小論文、教科指導（記述）、単元計画作成、実技等については個別に対応する。

16：00～16：20 ○振り返り・連絡 4211 … 司会（田中聡）

3 役割分担

- (1) 企画・運営・資料作成・課題作成等…田中（聡）、山口（祐）
- (2) 会場確保、会場設営、片付け…教職センター、参加者全員で
- (3) 個人面接担当…①向野、奥田、②山口（祐）、加藤、③田中、松本
- (4) 模擬授業…横山、加藤
- (6) 集団面接、論文…田中（聡）、山口（恭）
- (7) 連絡・調整…向野、田中（聡）

2022年度実施 教員採用試験 合格者

2022年11月2日 現在

1 次試験の合格者

【4年生】児童教育学科（小学校）・・・18名中17名 中高教職課程・・・12名中11名
【卒業生】1名中1名

2 次試験の合格者

【4年生】

国際英語学科

・1019033 ■■■■■ 東京都（中学校・英語）

史学科

・1119001 ■■■■■ 千葉県（中学校・社会）

日本文化学科

・1419038 ■■■■■ 千葉県（中学校・国語）

児童教育学科

・2319002 ■■■■■ 千葉県（小学校）
・2319007 ■■■■■ 千葉県（小学校） ※ 大学推薦
・2319009 ■■■■■ 千葉県・茨城県（小学校）
・2319011 ■■■■■ 千葉県（小学校）
・2319014 ■■■■■ 千葉県・北海道（小学校）
・2319015 ■■■■■ 千葉県（小学校）
・2319018 ■■■■■ 千葉県（小学校） ※ 大学推薦
・2319019 ■■■■■ 千葉県（小学校） ※ 大学推薦
・2319022 ■■■■■ 千葉県（小学校）
・2319023 ■■■■■ 千葉県（小学校） ※ 大学推薦
・2319025 ■■■■■ 栃木県（小学校）

生活文化学科

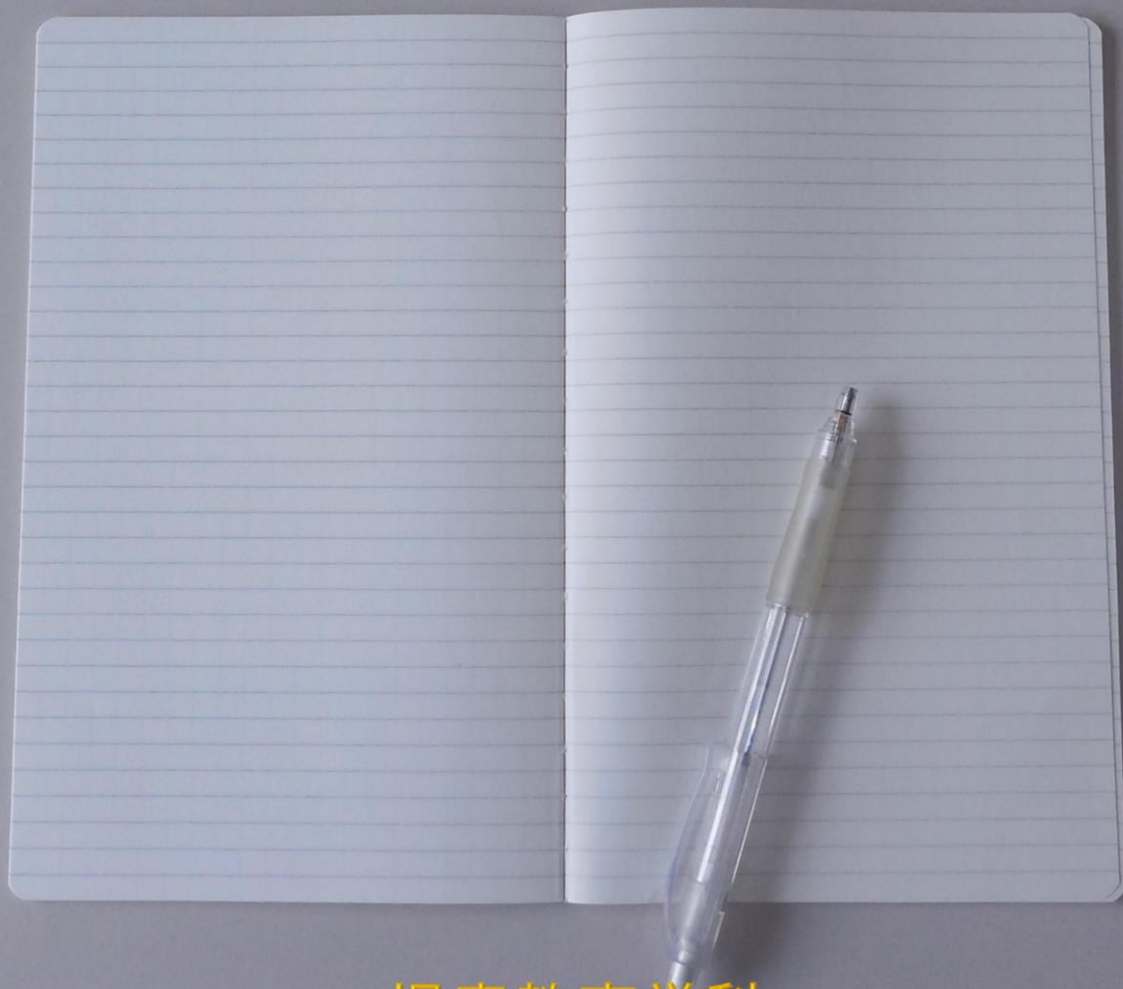
・3519010 ■■■■■ 東京都（中学校・家庭）

【卒業生】

史学科

・1118013 ■■■■■ 新潟市（小学校）

令和4(2022)年度
教員採用選考試験
体験記



児童教育学科
12期生

令和4（2022）年度
教員採用選考試験体験記

児童教育学科 12 期生

目 次

千葉県・千葉市（15名）	1～102
茨城県（2名）	103～114
東京都（1名）	115～119
栃木県（1名）	120～127
北海道・札幌市（1名）	128～135